



THE FUTURE

夢と希望をもち
よりよい
社会づくりに向け
行動する
～私は何をしに学校へ？～

子供も大人も「私は何をしに学校へ？」の問いに答えられる
当事者性と主体性をもって学校生活を送る学校をめざしています。
喜沢小学校の取組にご協力をお願いいたします。

すべての子供の違いが尊重され、互いに学び合える「インクルーシブな学校づくり」を
進めています。

- ◆ 人類社会は18世紀末からの工業社会、20世紀後半からの情報社会を経て、「サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」**Society5.0**への移行が提唱されています。
- ◆ VUCA時代、「変動性」「不確実性」「複雑性」「曖昧性」がキーワードになる**「先行きが不透明で将来の予測が困難」な時代**となると言われています。
- ◆ **2007年生まれ（現在18歳）の人たちの半数は107歳まで生きる**というデータがあります。これまでは親が亡くなってからの人生は30年くらい、これからは親が亡くなってからの人生のほうが長くなるのかもしれません。

日本財団による第62回18歳意識調査（令和6年4月）に、「自国の将来についてどう思いますか」という質問がありました。

日本の18歳の回答は「よくなる」が**15.3%**と調査を行った中国・インド・韓国・アメリカ・イギリスと比べ最も低い割合でした。さらに、自分と社会との関りについて、**「自分は大人だと思う」49.6%**、**「自分の行動で国や社会を変えられると思う」45.8%**と6カ国中最下位で5割を切っているのは日本だけでした。

また、第61回18歳意識調査（令和6年1月）に、「義務教育で何が重視されていたと思いますか」という質問がありました。

男女ともに最も多かった回答は、

「基礎学力（読み、書き、計算の知識や能力）を身に付けること」でした。

2番目に多かった回答は、

男性が**「集団の中で守らなければならない規律を学ぶこと」**、

女性が**「周囲の人とのコミュニケーションの仕方を身に付けること」**でした。

大きく変わる社会、「これまでの学校の当たり前」で子供たちは未来を描けるのでしょうか。子供たちが自分の人生に当事者性、主体性をもつ種をまく必要があるのではないのでしょうか。「一人ひとりが大切にされ、共に学ぶ経験」が未来を描く力につながります。障害の有無や文化・背景の違いを超えて学ぶインクルーシブな教育は、持続可能な社会づくりの基盤です。

子供も大人もワクワクする学校を一緒に創りませんか

パーパス

- **自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手**となる人材を育成する

ビジョン

- 自分から考えて行動することができる児童の育成
- 自分もみんなも大切にすることができる児童の育成
- あきらめないでやりきることができる児童の育成

ミッション

- 一人一人の多様なWell-beingを実現する学校
- すべての子供と大人が「私は何をしに学校へ？」に答えることができる学校
- 子供が主語の学校

バリュー

- 教科の本質を捉えた非同期の学びで、誰一人取り残されない「主体的・対話的で深い学び」を推進
【ICTの文具的活用・各教科でのPBL（プロジェクト型学習）】
- 応用行動分析を生かしたインクルーシブな支援で児童の主体性を育成
【学校全体で、学年で、学級で、個人で、生活に生きるPBS（ポジティブ行動支援）】
- データを利活用した多層型支援で個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
【データを活用した教材研究、データに基づく取組の効果検証】

ワクワクする学校づくりのブレーキ「これまでの学校の当たり前」

教師が教える 子供は教わる	教師が学び方を 決める 子供は教師の示した 学び方で学ぶ	教師が子供の学びたい をコントロールする 子供は教師のレールの 上を歩く	教師が問いの正解 を決める 子供は教師の正解を 忖度する	教師が子供の時間の 使い方を決める 子供は教師の指示に 従う	教師がルールを決める 子供は教師のルール に従う
------------------	---------------------------------------	---	---------------------------------------	---	--------------------------------



ワクワクする学校づくりのエンジン 3つの「これからの学校の当たり前」 子供たちの多様な個性や学び方を尊重し、互いの力を活かし合える場にします。

【脱・正解主義】

教師の正解を探し求める学校から
子供が最適解をつくる学校

【脱・予定調和】

教師のレールを歩む学校から
子供が試行錯誤できる学校

【脱・教師主導】

教師主導の学校から
子供が学びのハンドルを握る学校

3つの「これからの学校の当たり前」を実現するために

子供が自分の人生の主人公として生きるために、当事者性、主体性を育成

- 「リーダー・イン・ミー」カリキュラムで子供たちに自ら考え行動し他者と協働する力を育みます。子供たちが主体的に学び、他者との違いを受け入れ合う学校文化の創造することで、学力向上とQOLの向上をめざします。
- 手帳アプリは学習した時間ややることの進捗状況が可視化できるので子供は自分の頑張りを実感できます。自分の頑張りの実感をとおして、子供の振り返りの力を高め、自分らしく輝く主体性を育むことをめざします。
- 言葉の力は学力全般の土台です。読書は言葉にふれる機会を増やし、頭を鍛え、心を豊かにし、社会で生きる力を高めます。読書アプリでいつでもどこでも本を読める環境を整え、子供に読書習慣をつけることで、語彙力、思考力、想像力や他者を理解する力などを高めることをめざします。

「没頭・他者との関係・生きる意味・達成・ポジティブ感情」を実感する教育活動

- 非同期の学び、多層型支援、ICTの文具的活用による「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けたPBL型授業で誰一人取り残されない学びを進めます。
- 応用行動分析の考え方を生かして、一人一人に子供の主体性・社会性を育成するPBSの活動を進めます。
- 子供の主体性を育成する学校と家庭のシームレスな学びを進めます。
- 教育データを利活用した多層型支援の充実、教育活動の客観的な改善を進めます。

必要経費の概算

- 手帳アプリ15万円
- 講師謝礼10万円

インクルーシブ教育を実現する挑戦を応援してください。だれもが自分らしく輝ける学校を一緒に創りましょう。